

## ▼講座の由来▼

この講座は1955年よりはじまりました。愛農会の創始者である小谷純一（1910-2004）が「世界平和と愛と協同の理想農村建設」という2つの祈りを具現していく上で「心のどん底から農業に誇りを持ち、喜びを感じ、使命感に燃える人づくり」は欠かすことができないという確信にもとづき毎年続けられてきました。これまで土と命を守るためのノウハウを伝え、仲間の輪を広げ、地域社会になくてはならない人材を生み出してきました。

昨年の東日本大震災をきっかけに、本会は「千年続く村づくり」をモットーに掲げ、持続可能な地域社会づくりをテーマとして新たな歩みをはじめました。この講座は「これまでの暮らし・経済・食料・エネルギーなど社会のあり方を根本的に見直し、持続していける農的暮らしのあり方や社会を求め実践する仲間を生み出すこと」に重点をおいて開催します。

## ▼この講座の性格▼

【共同生活】・・・清掃や食後の配膳・片付け等は共同で行います。また宿舎は相部屋となっています。不自由はあると思いますが、同じ志をもつ仲間がひとりでも増えるきっかけにしていただければと願っています。

【聖書と讃美歌】・・・創立以来、愛農学園における農業教育の根本となっているものは「聖書」です。とくに早朝講話では価値観や心のこと、聖書からみた農業観について取り上げます。特定の思想・信条を強制するものではありませんが、テキストとして「聖書と讃美歌」（貸与）を使用します。ご了承ください。

【食事】・・・玄米菜食が基本ですが、肉や卵・魚介類が食卓に上がることもありますので、食事に制限のある方は事前にご相談下さい。また期間中は早朝から夜遅くまでかなりハードなスケジュールとなっていますので、飲酒はご遠慮ください。

## ▼部分参加について▼

部分参加も受け付けておりますが、全日程受講希望者を優先させていただきます。部分参加の場合、受講料は1日1泊3食付、8505円(税込)です。1講義のみの部分参加も可能ですので、くわしくはお問い合わせ下さい。

## ▼申込み方法・およびキャンセル規定▼

参加申込書に必要事項をご記入の上、郵送又はFAXにてお申し込みください。またはホームページの申し込みフォームをご利用ください。参加申込書を受理後、本会より受講決定通知をお送りします。それが到着しましたら所定の受講料を納入して下さい。受講者の都合で参加を取り消される場合、開講1ヶ月前から2週間前までは受講料の8割を、それ以降開講前日までは5割を返金します（返金にかかる送金手数料は本人負担）。それ以降は返金いたしませんのでご注意ください。なお連絡なく参加を取り消された場合は、受講料全額を申し受けます。

## ▼お申し込み・お問い合わせ先▼

〒518-0221 三重県伊賀市別府740（社）全国愛農会

Tel : (0595) 52-0108 Fax : (0595) 52-0109 E-mail : honbu@ainou.or.jp

愛農のホームページ <http://www.ainou.or.jp/>

## 全国愛農会とは・・・

全国愛農会は1945年、小谷純一によって興されました。農業を愛し、農業に生きる仲間が、自主独立の運動として推進し全国に広がっています。個人の思想、信仰の自由を尊重しつつ、愛農会の二つの祈り（人類社会の平和の祈りと愛と協同による村づくりの祈り）と、愛農精神（神と人と土を愛する三愛精神）に共鳴する人々が集い、平和で明るい農村・社会を実現しようとたゆまぬ活動をつづけてきました。

有機農業を教える日本で唯一の私立の農業高校である愛農学園農業高等学校を1963年に設立し支援している他、農業の担い手を養成するための農業講座、今回122回を迎える愛農大学講座、農業経営技術の研修会、有機食品の検査認証などを行っています。

持続可能な暮らしと農業のあり方が見える  
9日間の合宿集中講座

## 愛農大学講座

2012年8月11日(土)～19日(日)

会場：愛農学園（三重県伊賀市別府）

受講料：67,000円（宿泊・食費込）

募集人数：30名

申込期限：定員に達し次第、申込を締め切らせていただきます

主催：全国愛農会 後援：NPO法人懐かしい未来



8/11 (土) 1日目 [体操と 早朝講話]	※2日目以降、毎朝6時～7時まで 気功体操と早朝講話の時間となります。 ※初日は13:00～受付を開始します。	14:00 開講 16:30 オリエンテーション 自己紹介	19:30 体操 21:00 心と体の健康 ～ほぐす・のばす・ やわらげる～ [山口志津子]
8/12 (日) 2日目 [岡野 正義]	9:00 講義 11:45 荒廃する山村の現状と課題 ～私の営農体験から～ [石井康弘]	14:00 講義 16:30 百姓の思想 丸い地球の暮らし方 [筧 次郎]	19:30 座談会 21:00 筧さんを囲んで [筧 次郎]
8/13 (月) 3日目 [奥田 信夫]	9:00 講義 11:45 脱原発社会を生み出すもの ～国際協力と自然農 原発事故被災体験から～ [村上真平]	14:00 講義 16:30 懐かしい未来 ～ローカリゼーションという 新しい潮流と実践～ [鎌田陽司]	19:30 座談会 21:00 鎌田さんを囲んで [鎌田陽司]
8/14 (火) 4日目 [奥田 信夫]	9:00 農産加工実習 11:45 選択①鶏の解体 ②農産加工 ③石窯パンづくり	14:00 講義 16:30 持続的な暮らしと学びの場 シャロム・コミュニティからのメッセージ [臼井健二]	19:30 座談会 21:00 臼井さんを囲んで [臼井健二]
8/15 (水) 5日目 [山本 和宏]	9:00 ツアー 一日研修ツアー ～近隣の有機農場・農産物直売店・堆肥育土研究所などを訪問予定～	16:30	19:30 21:00 自由時間
8/16 (木) 6日目 [村上 守行]	9:00 講義 11:45 桜の山農場のチャレンジ ～エネルギー・資源の 地域内循環をめざして～ [坂本耕太郎]	14:00 講義 17:00 衣の自給から ～糸車から平和を紡ぐ～ [片山佳代子]	19:30 座談会 21:00 片山さんを囲んで [片山佳代子]
8/17 (金) 7日目 [奥田 美和子]	9:00 講義 11:45 有機農業が持つ多面的・公共的価値と それを生み出すもの [橋本力男]	14:00 講義 17:00 地域がはぐくむ技術、地域を育てる技術 ～エネルギーと農業をめぐる～ [桑原 衛]	19:30 座談会 21:00 桑原さんを囲んで [桑原 衛]
8/18 (土) 8日目 [直木 葉造]	9:00 講義 11:45 愛農かまどが与えてくれたもの ～ブルーベリーフィールズの 取り組みから～ [岩田康子]	14:00 ワークショップ 16:30 これからの持続的な農的暮らし、 農業の実践について ～講座の振り返りと今後の計画～	19:00 21:00 お餅つき 講座の学びを 分かち合う 時間
8/19 (日) 最終日 [霜尾 誠一]	9:00 講義 11:45 未来に希望をつないだ村、西方寺 [霜尾誠一]	※プログラムはやむをえず変更する場合もあります。 ※最終日は昼食後解散となります。20日からの選択農家実習を希望される方は、 引き続き愛農学園にご宿泊いただけます。	

オプション 8/20(月)～22(水)	選択農家実習(3日間) 【有機農業体験実習コース】 ※選択プログラムとなっています。ご希望の方は別紙申込用紙に必要事項をご記入の上ご提出下さい。 ※3日間のうち1日あるいは2日のみの参加も可能です。 ※9日間の講座受講料(67000円)以外に、選択実習中の宿泊(1500円／1泊)食費(600円／1食)交通費実費を申し受けます。
------------------------	---

石井康弘 農業 全国愛農会会長  
いしい やすひろ

1974年愛農高校を卒業後、ノルウェーで一年間農業研修を受ける。その後福島県田村市の実家で企業養鶏(種鶏)を3年担ったあと、東京の愛農食品流通センターに10年間勤務。再び福島に帰り平飼い養鶏を中心とした複合経営を実践するが実弟に経営を譲り、現在、奈良県山辺郡葛尾で平飼い養鶏800羽、5haの有機稲作を中心にした経営を行う。

筧 次郎 百姓 哲学者  
かけい じろう

1947年生まれ。1983年から筑波山麓で百姓暮らしを始める。2002年、農を基盤に自立・自給の生き方を学ぶ「スワラジ学園」の設立に参加し、2006年まで学園長を務める。その後は提携組織「スワデシの会」を運営するかわら、スワラジセミナーハウスの実習を担当している。著書に『百姓入門』『百姓暮らしの思想』『自立社会への道』(いずれも新泉社刊)などがある。

村上真平 なないろの空  
むらかみ しんべい

1959年福島県田村市生まれ。1982年インドに渡りガンジー・アシュラムに滞在したのをきっかけに海外協力の道に入り、バングラデシュで6年間、タイで5年間、自然農業の普及と持続可能な農村開発の活動に関わる。2002年に帰国し福島県飯館村に入植。「自然を収奪しない農の在り方と、第三世界の人々を搾取しない生活の在り方」を探索し実践していたが、2011年3月11日深夜、福島第一原発のメルトダウンを知り、12日早朝、飯館村から避難。現在、三重県伊賀市に在住。

鎌田陽司 NPO法人懐かしい未来代表  
かまた ようじ

1963年東京都生まれ。1988～89年、KJ法創始者川喜田二郎氏の研究所でKJ法を学び、研究・普及に取り組む。1989～98年、ヒマラヤ保全協会事務局長として、ネパールの山村で、よそ者と地元住民の協働による地元学、伝統智に基づく環境郷土教育、エコツーリズム、エコミュージアム、森林保全、適正技術などに取り組む。1999年～ヒマラヤ伝統医師協会顧問として、チベット伝統医療の復興を手掛ける。2001年～コンサルタントとして、JICAの海外プロジェクトの調査や評価を行う。2003年～NPO法人懐かしい未来代表。2007年～国際有機農業映画祭運営委員。

臼井健二 ゲストハウス シャンティクティ  
うすい けんじ

長野県安曇野市でシャロムヒュッテという、持続的な生き方を目指す様々な試みが学べるユニークな小さなホテルを創始する。現在、妻の朋子さんとシャンティクティというゲストハウスをしながら、パーマカルチャー塾、粉穀ストーブづくりの講習会と普及など、持続可能な生き方を目指す様々な取り組み、学びの会を主宰している。

坂本耕太郎 桜の山農場  
さかもと こうたろう

2000年に愛農高校を卒業後、農業研修を経て両親が山中に開拓した「桜の山農場」にて百姓を始める。「平和について考えるとエネルギーにたどりつく」という言葉に衝撃を受け、国産飼料を

使った豚の放牧と稲作を柱とした経営を行う他、天ぷら油で車や農機具を走らせたり、ガスの契約を切り糠くどや薪で生活するなど、楽しみながら「自給知足」の生活を営む。  
〈桜の山農場のブログ → [ameblo.jp/sakuranoyama/](http://ameblo.jp/sakuranoyama/)〉

片山佳代子  
かたやま かよこ

秋田県大仙市在住。1993年から2年間夫の海外赴任に同行しインドに在住。その時書店で手にした本からマハトマ・ガンジーの思想に触れる。それをきっかけに、現在はライフワークとしてガンジーの思想を紹介するとともに手仕事の重要性を伝え、手つむぎの講習会なども開催している。訳書に『ガンジー・自立の思想(地湧社)』『ガンジーの教育論(ブイツーソリューション発行・星雲社発売)』。著書に『非暴力・平和・糸車 ガンジーに学ぶこれからの生き方(ブイツーソリューション発行・星雲社発売)』がある。

橋本 力男 堆肥・育土研究所  
はしもと りきお

1952年生まれ。大学卒業と同時に三重県津市白山町で有機農業を始める。テーマは「農業と公共性」。現在80aの畑で野菜とマコモ、花を栽培。堆肥づくりと生ごみリサイクルのスペシャリストとして、企業のコンサルタント・家庭菜園の指導・コンポスト学校なども行う。三重大学非常勤講師。2008年には農林水産省より「農業技術の匠」に選定される。

桑原 衛 ぶくぶく農園  
くわばら まもる

大学院修士課程を修了後、水資源開発・エネルギーの専門家として途上国での技術協力に従事。20年前に埼玉県小川町で農業をはじめ。農業を使わず土の力を活かしながら野菜、米、雑穀を育てる(水田2ha、畑1ha、果樹園30a)。また、バイオガスカラパンを主宰し、バイオガスの普及に努める。また、NPO法人小川町風土活用センター(NPOふうど)の代表理事を務め、地域資源の管理・利用や生ごみ資源化事業等の自然エネルギーに関わる活動を実施。

岩田康子 ブルーベリーフィールズ紀伊國屋代表  
いわた やすこ

1948年京都市生まれ。大津市を拠点にブルーベリー栽培、ジャムの生産・販売、レストラン経営などを行う。同市の成安造形大学のキャンパス内にカフェテリア「結(ゆい)紀伊國屋」、滋賀県高島市にかまどでご飯炊きを体験できる観光農園「ソラノネ紀伊國屋」をオープンし、食の大切さを伝える取り組みも行っている。2010年には関西財界セミナーの「輝く女性賞」および毎日新聞主催「2010年グリーンツーリズム大賞」を受賞。

霜尾誠一 農業 愛農学園農業高等学校理事長  
しもお せいいち

愛農高校を1期生として卒業後、郷里の舞鶴市西方寺に帰り農業を嗣ぐ。全国的に中山間地域が深刻な過疎化に見舞われる中「農業が好きで好きでたまらない百姓」「田舎は自然の大都会」をモットーとして、地元から中山間地の活性化に取り組む。仲間と共に続けてきた「農業小学校」では、町の子どもたちを集めて農業の楽しさ、大切さを伝えている。長年の新規就農者を受け入れる活動が功を奏し、今では就農したいという青年たちが集まってくる村となっている。